

令和7年度第3回施策マネジメント診断部会（会議録）

1. 日 時 令和7年11月6日（木） 14：00～16：30
2. 場 所 大野城市役所本館3階 庁議室
3. 出席者 施策マネジメント診断部会委員および市職員等 14名

【内訳】

施策マネジメント診断部会委員 (団体推薦委員：5名)	日永田 圭子、高崎 多津子、吉次 康雄 高木 保子、井上 研太郎	
市職員 (8名)	辻総合政策部長	
	経営戦略課	的野課長、副島係長、 武田、樋口、梅野
	デジタル推進課	原課長
	財政課	千葉課長
株式会社日本政策総研	佐々木 央	

4. 議事概要（司会進行：副島係長）

(1) 開会

(2) 審議事項

- ◆令和7年度施策マネジメント診断結果・講評案について
(資料に沿って株式会社日本政策総研 佐々木氏より説明)

※主な質問・意見は別紙のとおり

(3) 事務連絡

(4) 閉会

- ◆あいさつ（辻総合政策部長）

《質問・意見》

(2) 審議事項

令和7年度施策マネジメント診断結果・講評案について	
取組 生活の困り事を助ける事業について	
1	<p>高齢者向けのサービスは、コストパフォーマンスがあまり良くないので、民間でやろうというところは少ないのではないかと。だからこそ、行政がそこに目を向ける必要があると思う。</p> <p>この場で、この事業はコストパフォーマンスが悪いから廃止、統合しましょうという話になると、高齢者向けのサービスがどんどん縮小していってしまう。確かにやり方などをブラッシュアップしていく必要はあるので、知恵を出し合いながら、効率的に事業を進めるとするのは大事だと思うが、サービスを提供していくというところに行政の存在価値があるのではないかと。(井上委員)</p> <p>⇒この講評案の内容は、高齢者向けのサービスを切り捨てていくという観点では作成していない。いい事業をやっているのだけれども、似たような事業をやっているために非効率になっているので、まとめた方がいいのではないかと、あるいは、高齢者の方が利用する際に利用者負担はあるが、介護保険のサービスで定められている金額よりも安すぎるのはおかしいのではないかと等、これから増えていく高齢者の皆さんにとって必要な事業を継続していくためにもこういう観点で見直してほしいという主旨である。</p> <p>切り捨てるのではなく、市役所が知恵を絞って、もっとよりよい事業にブラッシュアップしてほしいという思いで講評案を作成している。(日本政策総研)</p>
2	<p>社会福祉協議会や包括支援センター等いろいろなサービスを行っているが、どこが何をやっているかが明確になっていないのではないかと。(吉次委員)</p> <p>⇒今回、講評を作成する際に苦労した点でもあるが、高齢者を対象としたいろいろな困り事を解消するための事業というのが、介護保険制度もあれば、市独自の事業もあり、すごく複雑ではっきりしなかった。それが市役所本庁がやっているサービスなのか、地域包括支援センターに相談してほしい内容なのかといったように、よく分からない状況を紐解きながら作成した。</p> <p>おそらく市民の皆さんも、どれがどんなサービスで、自分がどのサービスに該当するのか、またはどこに相談に行けばいいのか、というのが分かりづらいのではないかと考えた。ホームページに掲載されている手引書を読んでも、これで高齢者の皆さんは理解できるか疑問に思った。この講評案を所管課の職員が読めば、もう少し分かりやすく整理しないとイケないなと気づいてもらえると思っている。(日本政策総研)</p>
3	<p>私も同意見で、年配の方の話を聞いていると、このあんしんまどか事業などの電話サービスを知らない。私自身も今回、こんなサービスがあったのかと知ったものもある。市が高齢者に分かりやすい方法で知らせてほしいと思う。広報だけでは分からないこともあると思う。今は高齢者の一人暮らしも増えて、不安な方も多い。</p> <p>介護認定を受けている人は、ケアマネジャーが付くからいいが、認定までいかないギリギリの人が多く。その人たちが分かるように、使いやすいサービスを分かりやすく知らせてほしい。(高木委員)</p>

	<p>⇒この「みつけてまどか」等のサービス、特に新規事業は、必ず市は回覧板や広報に掲載している。私は区長をやっているので必ず見るが、回覧板は見えていない方が多い。市にはいろんなところに情報を発信してもらっている。</p> <p>確かに、市民の方からすると分かりにくいのかもかもしれない。</p> <p>高齢者本人やそのご家族の方も、常日頃は私には関係ないと思って情報を流してしまっていて、いざ自分が困ったことになったときに、どうしたらいいか分からないという状況になる。</p> <p>最低限、困ったら地域包括支援センターに相談すると、サポートをしてもらえる。地域包括支援センターは各地域にあるので、その電話番号だけでも把握しておいた方がいいと思う。</p> <p>福祉委員と民生委員は本当に縁の下の力持ちになってくれている。(日永田委員)</p>
取組 市民に寄り添った健康サポートについて	
4	<p>資料23ページの「一般介護予防事業」の2年後に要介護認定になる割合が参加者群の方が非参加者群に比べて、1/2程度少なくなるというのは九州大学の研究で出ている結果か。(辻総合政策部長)</p> <p>⇒そのとおりである。(日本政策総研)</p> <p>そういった結果も合わせて、広報した方がいいと思う。</p> <p>これは大野城市の効果として独自に計測したもののなので活用してほしい。(辻総合政策部長)</p>
取組 誰もが安心して日常生活を送ることができる	
5	<p>緊急時セーフティネット構築事業について、事業名とやっている事業内容に乖離があるため、事業名を変更した方がいいと思う。(日本政策総研)</p>
6	<p>冷蔵庫に緊急連絡カードを入れるとあるが、救急隊や民生委員等がかけつけた時に冷蔵庫にそれが入っていることが分からないのではないか。(高崎委員)</p> <p>⇒冷蔵庫の外側や玄関に、緊急連絡カードが冷蔵庫に入っていることを伝えるステッカー、マグネットがある。(事務局)</p> <p>この事業は13~14年前に上大利区が始めた。いい事業なので、そこから大野城市全体に広まった。民生委員はこの事業の存在は知っている。(吉次委員)</p> <p>必要な人にもっと行き届かせるようにしてほしいという内容で講評案には記載している。(日本政策総研)</p>
取組 農業の振興について	
7	<p>前からずっとやっている各学校が近隣の農地を使って実施している農業体験のようなものは引き続きやっていくということでよいか。(吉次)</p> <p>⇒そのとおりである。各学校等で実施しているものについては、引き続き実施していただきたいと考えている。(日本政策総研)</p>

※全体として、講評案の修正はなし。